

有田中央高等学校

実施日時	平成31年 2月 1日(金)、2月 14日(木)
参加者	生徒103名、教職員30名 計133名
実施内容	テーマ別、災害に関する調べ学習及びその発表、出張！減災教室（ごりようくん体験）、和歌山県トラック協会による講演会

事前の取組

(1) リーダー、テーマ決定

クラス内で防災学習に向けた班を編成、その中でリーダーを決め、各班のリーダーの中から代表としてクラスリーダーを1名選出した。クラスの一員としての意識向上や来年度に向けたリーダーの育成をねらいとした。また、クラス別に調べ学習を行うテーマを決定した。

(2) 防災ビデオ鑑賞

防災を身近なものとして実感することをねらいとして、調べ学習に入る前に、阪神淡路大震災をテーマとした映画『阪神・淡路大震災から15年 神戸新聞の7日間 ～命と向き合った被災記者たちの闘い～』を鑑賞した。感想を書くにあたり、「自分たちの調べるテーマと関連づける」ことに重点を置いた。

(3) 小テーマの決定

クラスのテーマごとに、自分たちの生活や住んでいる地域と関連づけて、「今、自分たちに必要なもの」という観点から小テーマを考え、決定した。

主なプログラム

今年度の防災スクールは、①「災害を身近なものとして捉え、自分たちの防災意識を高める」②「クラスでの取り組みを通して自己の責任感を高める」の二つを目標に取り組んだ。その達成を

目指し、クラス単位での調べ学習を行った後、全体で発表の場を設けた。

・調べ学習

班別でそれぞれの小テーマに対してインターネット・防災図書を用いて調べ学習を行った。班内での役割を決め、それぞれが役割を全うすることを目標に取り組んだ。



・クラス内発表及び全体発表

調べた内容をクラスのものとしてまとめるため、班別の調べ学習を、クラス内で発表した。その後、学校公開日である「学びの日」に全体発表を行った。目標達成に向け、司会や運営は防災リーダーが中心となって取り組んだ。



・ごりようくん体験

いざ地震が起こった場合の迅速な行動に向けて、実際に地震の揺れを体験した。地震の揺れの怖さを体験することでより身近に地震を感じ、防災意識向上につながった。



- 講話（和歌山トラック協会）

和歌山県トラック協会の方々による、被災地支援の物資伝達についてや、「働く」というキャリア的な視点とも関連付いた講話を聞いた。



を設けた長期的な取り組みにしたことで、生徒達が一定期間防災について考える機会となり、防災意識向上につながった。また、自分たちでテーマを考え調べるなかで、実際の被害状況や具体的な数値を目の当たりにし、より身近に災害を捉え直すきっかけにもなったと考えられる。

今回はまず災害について「知る」ことを中心に据えて取り組みを行ったが、実際に災害が起こった場合の具体的な対応等には到達できていない。そのため、今後、体験的な学習や避難訓練などを取り入れながら、継続して防犯意識を高めることを大切にしていきたい。

参加者感想文

- もし災害が和歌山で起きたらということを考えて、避難場所の確認や水、防災グッズなどを今のうちに買って備えておきたいと思います。まだ自分たちは大きな災害をこの体で体験していないのであまり実感はわからないけれど、写真や発表を見ていると実際はすごいことになっているし、その後の人生にも関わることだと思います。他の地域で災害が起きたら募金やその他のことでも、少しでも協力しようと思いました。
- 実際に体験してはいないけど、調べ学習を終えてみると何も知らないまま避難するのと全然違うと思った。自分から災害を知ることは自分の身を守ることに繋がると分かった。まだまだ知らない災害もあるかもしれないので、色々知っていきなと思った。

成果と課題

単発の学習で終わらせるのではなく、発表の場